

〔伊呂波字類抄奈倫〕汝ナンチ 爾同正作禽 乃 迺 若 而 戒 余 畜 此 卿 尔 渠

曹ナムチ 汝ナムチ 曹ナムチ 衆也、汝等同

〔書言字考節用集人倫〕汝ナムチ 人ナムチ 所ナムチ 輕賤ナムチ 之稱、爾同 又作 阿你同 傳燈 卿曹ナムチ

〔倭訓栞前編十九〕なんぢ 汝乃而爾若戎をよめり、名持の義成るべし、大汝とも大名持とも書る

にて知べし、汝通じて女に作る左傳に爾有亂心无厭、國不汝堪、專伐伯有、而罪一也、とみゆ、三字の

語意考へ知べし、若は史記に見え、戎は詩經に多し、

〔日本書紀神武〕戊午年九月、椎根津彥著弊衣服及蓑笠爲老人貌、又使弟猾被箕爲老嫗貌、而勅之曰、

宜汝二人到天香山、潛取其巔土、而可來旋矣、基業成否、當以汝爲占、努力慎焉、

〔倭訓栞前編十九〕なれ。物に泛く指ていふの辭也、汝といふが如し、名有の義なるべし、わをわれ、

おをおのれといふに同じ、俚言にそちらといふ如し、

〔萬葉集六雜歌〕天皇武 賜酒節度使卿藤原 御歌一首并短歌

食國遠乃御朝廷爾汝等之如是退去者略 下

〔倭訓栞前編十九〕な。中 汝をなといふもなれの略、我をわといふ如し、日本紀、万葉集に見ゆ、名、

に同じ、歌になこそはとも、ながなければなどもよめり、なせ、なにも、なあに、なねなど、人をよぶ

にもいふ也、

〔古事記傳四〕汝は此字常に漢文にては那幸遲と訓、古書には伊 上代の歌どもにも多く、那と詠、又

那禮吾を吾禮、己を己禮と云なり、那兄、那泥、汝妹、汝者、尤恭紀、汝命なども皆那を本としたる稱なり、註

略か、れば汝は、那と云ぞ本なりける、略 中 さて那も伊麻斯も、後には下さまの人にのみいへど

も、いと上代には然らず、其本は尊む人にもいへる稱なり、汝字を當しを思へば、其頃になりては、

ども、上古は爾汝など云稱に、上下の別ちはなかりしか、己が夫を汝と云ること、沼河比賣の歌、又須